

ぶつり

発行所 中央大学白門物理会
〒112-8551 東京都文京区
春日 1-13-27 中央大学
理工学部物理学準備室
発行人 志村元良
編集人 志村元良
電話 03-3817-1767
FAX 03-3817-1792
e-mail nakamura@phys.chuo-u.ac.jp

中央大学校歌

作詞 石川道雄
作曲 坂本良隆

一 草のみどりに風薫る
丘に目映き白門を
慕い集る若人が
真理の道に歩みつつ
栄えある歴史を承け伝う
ああ中央、われらが中央
中央の名よ光あれ
よしや風は荒れども
揺るがぬ意気ぞいや昂く
春のおこりの花ならで
みのりの秋やめざすらむ
学びの園こそ豊かなれ
ああ中央、われらが中央
中央の名よ誉あれ
いざ起て友よ時は今
新しき世のあざむけ
胸に血潮の高鳴りや
湧く歌声も暗れやかに
自由の天地を駆けゆく
ああ中央、われらが中央
中央の名よ栄あれ

設立に寄せて

会長 志村元良

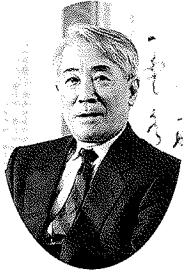


一九九八年十一月二十八日、白門物理会の設立総会が、理工学部校舎五三三三教室に於て三百三十二名の賛同を得、盛大に催されましたこと、心よりお祝い申し上げます。設立準備委員会の皆様、お忙しい中長い間手弁当で、ご苦労いただき有難うございました。そもそも本会の設立の話は、二年前の八月に、中央大学理工学部創立五十周年

の記念事業が一九九九年五月に行われる事と、物理学科のOB会を作りたいと言う事で動き出した次第です。この物理学科は、一九六六年に最初の卒業生を送りだして以来、今年で三十四期となり、三千名以上の卒業生が社会の多分野において活躍しております。後楽園の学び舎で勉学に励み、先生方、友達と多くを語り、物理学科の卒業生として誇りを持つている我々一人一人が、この会の設立を機に、会員相互の新しい交流と親睦のネットワーク

学長からのメッセージ

中央大学学長 外間 寛



充実を目指して努力を続けております。

理工学部の卒業生約四万五千人のうち、物理学科の卒業生は三千人を超えているとのことです。物理学科の卒業生が各界各分野で活躍されていることは誠に喜ばしい限りであります。科学技術立国として基礎科学が重視されている折、物理学という基礎学問を習得された皆様方の果たす役割は誠に大きいと考えます。皆様方の益々のご活躍を切に願うとともに「白門物理会」が大いに発展することを祈念してお祝いの言葉にかえさせて頂きます。

盛り上がった設立総会

関根 行雄



白門物理会設立総会 1998年11月28日

一九九八年十一月二十八日(土)十六時から、中央大学理工学部校舎五三三三教室の五号館二階五三三三号室で開催された。

受け付けが十五時三十分から開始されると、全国からの参加者が続々と来場、十六時の段階では百十名の同窓生が集った。この時点での入会者リストには三百

三十二名が記載された。設立総会は、定刻に開始され、式次第にしたがって進められた。まず趣旨説明が、物理学科教授として後進の指導にあたられている

総会の第一部は講演会。同窓会設立を記念しての講

師は、黒沢達美先生にお願



黒沢 達美先生の講演会

志村元良会長の挨拶、深井有先生の乾杯でスタートし、雰囲気が一気に盛り上がった。来賓の方々や諸先生の祝辞や思い出話を伺いながら、和気藹々論議笑風のなかでさまざまなプログラムが進行していった。各期ごとの

時代に入入っており、抜本的な対策を迫られています。二十一世紀における本理工学部のさらなる発展は、我々教職員一同の努力はもちろんのこと、卒業生の皆様の絶大なご支援・ご協力なしでは達成できません。今後ともよろしくお願い申し上げます。

最後に物理学科の卒業生の皆様のますますのご活躍を念願しております。

杉本秀彦先生(四期一九六五年入学)によって行われた。一九六六(昭和四十二)年に第一期の卒業生を社会に送り出して以来、三千名を超える人材が社会で活躍しているとのこと。物理学科同窓会の設立を望む声と相俟って、その意義が明快に説明された。

議事は、議長に選出された白柳勝氏(二期一九六三年入学)によって進行。会の規約が満場一致で承認され、役員選出では、議長より人事提案があり、これも満場一致で可決された。

事業計画については、会長となられた志村元良氏(二期一九六二年入学)によって、白門物理会の事業の概要が宣され、今後の方向付けがなされた。

予算説明では、会計兼務副会長に選任された佐々木文三氏(四期一九六五年入学)から、現時点での会費総額が百三十万円であると報告され、今後の予算案とともに会計処理についての提案と説明が行われた。

総会の第二部は講演会。同窓会設立を記念しての講

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

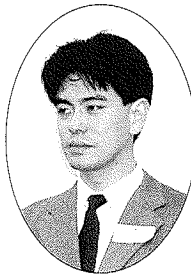
師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

師は、黒沢達美先生にお願

頑張りました！ 懇親会司会

村上 研太郎



白門物理学会発足をとてもうれしく思っています。

私は幹事として、半年強の間準備委員会に参加させていただきまして、準備委員会に参加したのは、堀江先生の定年をお祝いする会の会場で杉本先生に誘われたのが始まりでした。

幹事会には、二十期以降のメンバーがほとんどいない状態だったため、若手

(もう二十歳を超えています)の意見として何かをしなればという気持ちで、物理学出身というある程度限定した道を進んだ人たちの交流が楽しみという気持ちで、物理学会発足へ協力する力になったのではないかと考えています。

総会当日は創立総会及び黒沢先生の記念講演で写真撮影、懇親会で司会を務めさせていただきました。懇親会での司会には私自身は無難に終わって良かったと今更ながらに

思います。大勢の前で司会をする緊張と、程よい酒と、和気藹々とした雰囲気と、そして、私のアバウトな性格がうまく融合できたのが理由でしょうか？

山先生や、アキレス腱を切ったためにギブスをされていた深井先生など、皆さん元気で出席してもらえたことはとてもうれしく、印象に残っています。

そういえば、先生方の挨拶は一人ひとりお願いしたのですが、一言で終わられたため挨拶の写真が残っていない竹山先生！ 変わってないな！と少し思いました。

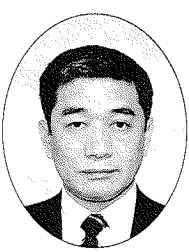
今回の懇親会も楽しめるように、頑張りますので(司会をするとは限りませんが)皆さんも出席をお願い致します。

ニコン株式会社勤務)

ニコン株式会社勤務)

シリコンの谷間で踊りたい

盛本 一成



ど無いかもしれないが)

サンフランシスコ空港から一〇一号線を内陸に向かつてしばらく走ると国道の両側に聞きなれたコンピュータメーカーの建物が次々に現われる。広大な平野の中、抜けるような青空の下、カリフォルニアの日光しを

はこんな土地で生まれた。そしてそれを生み出した星のようなエンジニア達、スティーブジョブス、ウォズニアク、スコット・マクネリといった名前が次々に思い浮かぶ。彼らは僕と同じジェネレーションであり西海岸のカウナタカルチャの担い手であった。ブルジョアとアメリカンロックス、企業のためではなく個人が自由に使いこなせるコンピュータパーソナルコンピュータを目指して次々と新しいテクノロジーを生み出していった。そして彼等の成功は彼等が生み出したテクノロジーをビジネスという場で異なる次元の世界に導いていったことはある意味で必然であったと思う。自由と理想を箱に詰めてクロゼットの奥深くし

まいこみ、更なる成功を求めた者と、自ら生み出した物を東海岸のダークスーツのビジネスマンに売り渡し、新たな理想を求めたものと頭を悩ませた。ここを訪れるたびに僕は同じジェネレーションに属する彼等の行く末を思いやり何かと考へ込んでしまうのだ。

そんな過去を抱えたシリコンバレーは今や多くの投資家達が踊りまくる賭博場となつていく。流れ込む金が原動力となつて相変わらず次々と新しいテクノロジーを生み出している。言いかえれば、盛大なパーティが開かれていくようなものだ。そんなパーティの片隅でさつと若い理想に燃えたエンジニアが新たなテクノロジーを生み出しているかも知れない。僕もいつの日かパーティで彼等と一緒に踊ってみたいと年甲斐もなく思っている。でも、パーティへの招待状は未だ届かない。(第五期 富士通(株)勤務)

白門物理学会 設立に向けて

塚田 和之



私たち物理学科の十八期生は、中央大学第百回卒業生にあたります。

卒業してきて、この様な節目に当る事に気づきますが、学生時代はなんととも天眞爛漫な学生生活を送っていた事を思い出します。

理工系の学生は勉強自体も大変です。中学校や高校のように自分の教室が決まっているわけではありませんが、サークルにでも入らない限りなかなか親しい友人が作りにくい所です。

しかし、私たちの期の仲間にはちょっと違い、二時間以上も通学にかかる場所から毎日下駄を履いてくる者、冬でもTシャツ一枚で平然としている者、競馬にかけては他に引けをとらず後楽園の場外馬券売場が教室だった者、学費をアルバイトで稼ぐのに一生懸命でなかなか授業に出てこない者、漫画が飯よりも好きな者(彼は現在マンガ家として活躍中)など、個性と言う点では枚挙にいとまの無い連中の集まりで、どこに遊びに行くにも大挙して出かけたものです。

この仲間意識は当然のことながら勉学においても強調され、四年間を通じて用が無いのに登校する者も含め、お互いに弱いところを補い合いほぼ全員が一緒に卒業できたことが昨日の事のように思い出されます。

今回、白門物理学会の設立に当り、緒先輩のお力をお借りして我々の期もできるだけの多くの人に声をかけるべく、不確実な住所録を頼りに電話をかけるつもりです。

ある家族の方は何かの勧誘と間違われ、そつけない返事でいきなり電話を切られたり、本人でも「私にはもう関係ない」と冷たい応対をされる人も少なくなく、卒業後十五年以上の時間の流れは思っている以上に大きい事を痛感しました。

しかし、一方で話をしているうちに昨日の事のように昔を懐かしんだ会話がはじまり、一時間近く会話をしませんでした。」「苦勞様、頑張つて、何か有つたら手伝うよ」と温かい声をかけてくれる旧友に接すると、今回の活動の意味が如何に大きいものかを感じさせられました。

結果として、まだまだ連絡のつかない人も多く、今回繋がった輪はそう大きいものではありませんが、これから何歳になってもこの白門物理学会を通じて輪が大きく広がっていくことを願って止みません。

(十八期幹事 東京都板橋区立志村第一中学校教諭)

こうらくえん ①

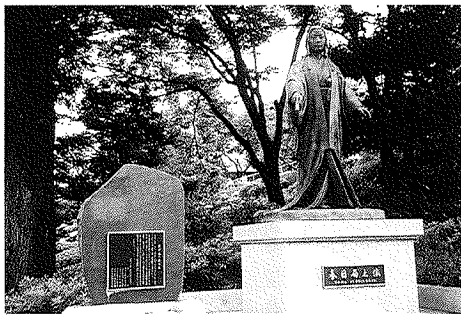
清水 正

私は四十三年法学部の卒業です。縁があつて今度、物理学科のメンバーの方々との交流ができました。四十三卒全学部の仲間と白門四三会に参加しております。

私の趣味は鉄道と建物です。鉄道は特に歴史に興味があり、鉄道路線の成り立ち研究や鉄道施設の写真撮影、建物は西洋式の近代建築物です。時間があれば町中の建物の写真とりに熱中しています。このことに関連があつて町並みや町の歴史、町名の由来などに興味をもつております。

母校の土地後楽園を舞台にして、これらに関係のある話題を十回ぐらいの予定でこの連載もの(こうらくえん)を書いてみようと思ひます。

この紙面を通じて物理学科の皆様と交流ができることを嬉しく思っています。



富坂に立つ春日の局の像

中大理工学部の所在地は文京区春日、春日通りをはさんで、北は小石川、南は後楽となつてゐる。明治十一年、東京の新しい行政区画が定められて、その際地図が発行された。春日通りからJRの中央線までのあたり、広大な土地は軍需工場、砲兵工廠であつた。富国強兵の世、東京には各地に軍事施設が幅をきかせていた。南側には外堀をはさんで、甲武鉄道(中央線の前身)の遊園地、東京ドーム、地下鉄後楽園駅その他多くの施設が集まる。母校前の富坂を東へ少し下ると、家光の乳母・春日局の像がありそのとなりには春日町の由来などを記した案内板が立っている。時折通り掛かりの人が昔の地図や説明を読んでいる。公園の木立にときこむわずかな一角は歴史を感じさせる。

(富士ゼロックス(株)勤務)

「パソコンとインターネットの勉強会」について

白柳 勝



この勉強会は、パソコンのセッティングから、インターネットの開設方法、メールのやり取り、ホームページまで皆で作成、ネットワークの和を築こうとの意図で企画しました。

第1回目は「インターネットを覗いてみよう!」の会を予定しています。参加されたい方々は下記までご連絡ください。

開催日時は希望者に後日連絡申し上げます。なお、この勉強会の講師をして下さる方を募集しています。パソコン・インターネットに詳しい方々は是非ご連絡ください。

また、「白門物理学会Eメールの会」会員の募集も行いたいと思います。入会されたい方々も下記までご連絡ください。

連絡先：東京都羽村市羽東1-27-9 コーポ羽村101 白柳 勝
TEL & FAX : 042-554-9609
E-mail : smasaru@tky.3wed.ne.jp

以上のとおりです。宜しくお願いします。
(2期 白柳電気管理事務所)

白門物理学会のホームページご案内

白門物理学会のホームページが開設されています。URLは

<http://www.phys.chuo-u.ac.jp/obkai.htm>です。どうぞご覧ください。このページは中央大学理工学部物理学科のホームページ <http://www.phys.chuo-u.ac.jp> の日本語表示のページのお知らせの中の「物理学科卒業生へ」の項目をクリックしても見ることができます。

ホームページの作成
白門物理学会のホームページを充実したいと考えております。ホームページの作成に協力いただける方を募集しております。お願いできる方は

e-mail:sugimoto@phys.chuo-u.ac.jp にご一報ください。
(4期 杉本秀彦)

「白門物理学会」誕生秘話

第三期 鶴田 将



「白門物理学会」は中央大学理工学部物理学科又は大学院理工学研究科に在籍した人及び教職員並びに本会の趣旨に賛同する人で組織する会です。この会は平成十年十一月二十八日(土)の設立総会をもちまして正式に誕生しました。

自分の会社経営のご苦労話をされたなかで、他大学に比べて中央大学は卒業生同士の結束力が強いことを指摘され、是非、結束力強化の意味でも白門物理学会を作らなければならないと思いついたのが昨日のように思い出されます。

また、この会を作る上で、大学側、特に物理学科の先生方のご協力なしでは会の運営が機能しないことは十分承知しておりましたので、私が平成九年八月二十四日に偶然、理工学部で行われた中央大学学員会年次支部協議会(通常はお茶の水の駿河台記念館で行う)に出席した折、理工学部事務長の尾留川さん(白門四三会の同期)に挨拶する機会があり、暫く一階の事務長室でビールをご馳走になりながら歓談した後、第四期卒業生の杉本秀彦先生のところへ挨拶に伺った。この時、杉本先生は理工学部五十周年記念事業の準備委員をされており、白門物理学会を設立するならば、その前の平成十年三月迄に作るのが良いのではないかと提案された。

こうして、大まかな方針が決まったところで、第一回の白門物理学会設立準備会が志村さんの経営する(株)オクタックの会議室で志村さん、第二期の白柳勝さん及び私の僅か三人でスタートした次第です。その時に決められたことは、①理工学部五十周年前の平成十年三月迄に設立する②中央大学駿河台記念館内の学員事務局で支部設立の条件の説明を受けること及び物理学科卒業生の名簿を取得すること③既に設立されている工業化学、土木及び管理工学の同窓会規約が私が入手すること④物理学科各期の世話人を二名位決める⑤会費の検討であった。

そして翌日(平成九年八月二十五日)、午後四時ごろ駿河台記念館の学員事務局の佐藤部長を志村さん、白柳さん、私の三人が訪ね、支部設立の条件等の説明を受け、そのあと、午後六時半から第二回準備会が理工学部物理学科教室で堀江先生、杉本先生、志村さん、白柳さん、私の五人で行われた。そこでは、物理学科卒業生二千余名へのアクセス、最新の卒業生名簿の入手方法等が検討された。さらに私は杉本先生の署名捺印をもらった上で、八月二十六日に学員事務局に卒業生名簿入手の申請を行った。

こうして、第三回準備会は平成九年九月十一日に堀江先生、杉本先生、志村さん、白柳さん、若井顕之(二期)さん、私の六人の出席で午後六時半から物理学科教室で行われた。ここでは各期の世話人が次回集まるための日時、場所等が決められた。また世話人の手配はこの六人が分担して電話等によりアクセスすることが決められた。私は名簿に基づいて、いろいろ電話引き受けて下さった方もありましたが、迷惑がられたこともあり、さらには保険の勧誘の電話かと誤解されることがありました。紙面を借りてご迷惑をかけたこととお詫し願います。

いよいよ第四回準備会からは出席者も増えたので、会場も広い理工学部六号館一号室で平成九年十月二十四日午後六時半から行うこととなりました。この会では、一応式次第を作り、深井先生の開会挨拶、堀江先生の設立趣旨説明があった後、志村さんから各期の世話人に設立総会に向けての具体的な説明がなされました。

ここで来れば、後は組織作りも定着していき、私の役割もかなり終わったという実感が出てきました。こうして、毎月一回のペースで準備会が進められ、規約作りや会費の徴収等いろいろな議論したことが懐かしき思い出され、世話人の献身的なボランティア精神により、どうにか設立総会の為の案内状の送付が終わったときなどはやれやれといった気持ちでした。世話

最近の中大―少子化と大学改革

理工学部教授 杉本 秀彦



女性一人が生産に産む子供の数が二を割ったという記事が新聞に掲載されたのは、ずいぶん前である。最近、この数は一・五を大きく下回っているとのことである。平均二人から一人強の命しか生まれないというこの少子化は重大な影響を日本の社会に及ぼすことになる。この影響の走りが教育界に現われている。幼稚園児の減少は深刻で地域によっては多くの幼稚園が閉園に追い込まれたと聞く。

実際、私の二人の息子が通った近くの幼稚園も十年ほど前に廃園になった。小・中学校や高等学校の生徒数の減少も顕著で公立校が廃校になった地域もある。数年前から、大学にも少子化の影響が直接出始めている。受験者数の深刻な減少を経験している大学も多く、入学希望者数が全大学の入学定員数を下回る日も近いという。入学する学生の側から見ると、以前の状況とは異なり学生が大学を選ぶことができるわけだから、よいことのようにも思えるが、大学にとっては死活問題である。入学希望者数の減少は大学入学者の減少を引き起こし、それが大学

で、会場も広い理工学部六号館一号室で平成九年十月二十四日午後六時半から行うこととなりました。この会では、一応式次第を作り、深井先生の開会挨拶、堀江先生の設立趣旨説明があった後、志村さんから各期の世話人に設立総会に向けての具体的な説明がなされました。

ここで来れば、後は組織作りも定着していき、私の役割もかなり終わったという実感が出てきました。こうして、毎月一回のペースで準備会が進められ、規約作りや会費の徴収等いろいろな議論したことが懐かしき思い出され、世話人の献身的なボランティア精神により、どうにか設立総会の為の案内状の送付が終わったときなどはやれやれといった気持ちでした。世話

必要とする人材の育成には大学院教育が必要となる。そこで大学院学生定員の大幅増員が各大学で行われた。大学院の充実を行えば、就学年限の実質的な延長となり、大学に籍を置く総学生数の減少を食い止めることができる。これにより、大学の規模縮小なしにその機能を維持・拡充していくことが可能。したがって、大学院充実が少子化対策でもある。

中央大学でも大学院の充実がはかられてきた。特に理工の大学院は大幅な定員増加が行われた。しかし、このような大学院の増員は、多くの大学で行われている。そのため大学間で大学院進学希望者のとりあひといった様相が生じつつある。そこで、学部卒業生の中から成績上位の進学希望者の入

学を認める推薦入学制度が採用された。現在までのところ、この入試制度は有効に機能している。また、私大の高額な学費は経済的な自立が要求される年齢である大学院進学者にとっては大きな負担である。国公立大が大学院の門戸を大きく広げている現在、競争に打ち勝つためには学費の問題が重要となる。そこで、中大では大学院学生の学費の大幅値下げを今年度から行い、その額を国立並みに抑えた。進学者の増加を促す方策は、これら以外にも検討されており、社会人の受入れなどの新制度が実施されている。更に、新制度の大学院を念頭に最近市ヶ谷にあるアジア研究所の跡地と建物を昨年末に購入した。この土地は都心での高度な研究教育拠点の一つとして使用することを目指しており、その有効な利用法の検討を行っている。また、理工学部がある後楽園キャンパスには、最近新設された情報工学科の施設とともに大学院用施設の充実を目指して新校舎の建設が計画されている。

もう一つの改革は学部それ自身の改革である。多くの大学で、学部・学科の新設や学科の統合と学科名の変更などが行われた。中大でも総合政策学部が新たに設置されるとともに、既存の学部で学科の新設や変更が行われた。理工学部を例にとると、情報工学科が新設され、工業化学科が応用化学科、管理工学科が経営システム工学科、電気工学科が電気・電子工学科に、学科内容の変化にしたがつた名称変更が行われている。なお、電気・電子工学科は再度学科名を変更する予定である。そのほかには、勉学意欲を持ち、向上心のある学生の発掘に有効な新しい入試制度の導入や、教育内容をより魅力的にするともに、教育指導要領の変更に対処する新カリキュラムの作成等々、多くのことが実行または検討されている。これらの改革により、魅力的な大学を作り、大学間の競争に打ち勝つて、多数の受験者の確保を目指している。

少子化の波は、現在、大学に大きな影響を及ぼそうとしている。しかし、これらは少子化が引き起こす影響のほんの一部であり、始まりにすぎない。出生率が今のままなら、日本の人口は二〇一〇年ごろから減少しはじめ、その減少の速度は急激なものになる。戦争や大きな災害・疫病による一時的なものを除けば、今までの日本の歴史の中で人口の減少は経験されていない。したがって、少子化による人口減少がどのような影響を社会や個人の生活に与えるかは、はっきりと予測できない。何しろわれわれは右肩上がりの変化しか経験がないのである。しかし、社会にとって、世代間で役割を円滑に引き継いで行くことが不可欠であることは確かである。年金問題は少子化によりそれがスムーズにできないことから起こる問題の一つである。だが、この少子化の問題は日本の特殊事情である。世界的に見れば人口爆発が起こっている状況にある。日本人の減少と人類の急激な増加。われわれ日本人にとって二十一世紀は波瀾万丈となることを暗示しているように思える。

(四期 中央大学理工学部勤務)

平成10年度会計報告書			
期間：平成10年4月1日～平成11年3月31日			
収入の部		1,611,694	
会費	終身会員会費(45名分)	1,266,000	
雑収入	通常会員会費(67名分)	201,000	
	寄付、利息等	144,694	
支出の部		299,473	
総通備消耗品費	花代、写真代等	47,245	
	案内状送付代等	219,275	
	印刷代等	29,985	
	筆記具等	2,968	
残高の部		1,312,221	

(4期 佐々木 文三)

会費納入のお願い

これから白門物理学会は、積極的な活動をしていきたいと考えています。会員拡充活動、名簿・会報の発行と送付、その他日常の活動を行うためには、皆様のご支援が必要になります。

白門物理学会に入会を希望される方、また入会申込みはしたが、まだ会費を納めていない方、ぜひ下記にご連絡ください。振込みの所定用紙をお送りいたします。

年会費 三、〇〇〇円
終身会費 三〇、〇〇〇円

〒二二八五
東京都文京区春日一三二七
中央大学理工学部
物理学科準備室
電話 〇三三八七二七六
FAX 〇三三八七二九二
e-mail: nakamura@phys.chuo-u.ac.jp

[illegible]

役 員 紹 介

設立総会で、会長以下役員が選出され、会の運営を進めていくことになりました。ここにご紹介をいたします。

なお、各期から若干名ずつ選出された幹事の方々については、会員名簿のなかで○印を付すことでご紹介をさせていただきます。

会長	志村 元良	(第一期)
副会長	白柳 勝	(第一期)
	鴫田 將	(第二期)
	杉本 秀彦	(第四期)
	佐々木 文三	(第四期)
會計	佐々木 文三	(第四期)
監事	関根 行雄	(第五期)
	飯島 章男	(第十三期)

會
員
計
報

山崎利則さん
一九九四年三月八日
逝去。 第十三期

島村豊彦さん
一九九七年八月一日
逝去。 第十五期

初岡敏也さん
一九九七年十月八日
逝去。 第十四期

代田旧保井 政恵さん
一九九八年六月三十日
逝去。 第二十四期

相川孝一郎さん
一九九八年九月十五日
逝去。 第二十五期

春原久一さん
一九九九年五月三十日
逝去。 第三期

謹んでご冥福をお祈り
申し上げます。

校歌について

現在校歌として歌われている「草のみどり」は、戦後の時代にふさわしい新しい校歌を作ろうという気運が学生の間に生まれたことから、学生自治会の音頭で作られたものです。

編集—後—記

創刊第一号をお送りいたします。創刊号ということで、第四面には全会員の名簿を掲載いたしました。会の規模が想定できるかと思います。

会報「ぶつ」は、白門物理会の会員400人をつなく唯一の機関紙です。紙面が会員の情報で満たされ充実するには、また発行回数を増やすためにも、皆様の積極的な寄稿に頼むしかありません。

編集委員一同、この会報を内容のあるより良いものにして思いとしています。ふるとご投稿をお願いします。原稿は第一面の連絡所にお送りください。

本紙の制作にあたっては、白門43会で、会報の編集を担当されている清水正氏から、多大なる助言とご指導をいただきました。

氏に心から御礼を申し上げます。

編集委員長 鵠田 將
編集委員 杉本秀彦、関根行雄、吉川秀雄、
鈴木毅則